

アメリカ発



最新歯科医療レポート

Vol.06 リポーター:和田圭祐



和田圭祐=1970年5月9日生まれ。広島大学歯学部卒。名古屋大学医学部大学院で医学博士号を取得。米国ハーバード大学大学院で08年6月、歯学博士号取得。米国歯周病専門医。現在ペンシルベニア大学歯学部でインプラント学ディレクターとして教鞭をとる傍ら、インプラントの臨床研究を行っている。2ヶ月に一度帰国し、本院にて治療に携わっております。

最近の研究成果によって、失われた歯に代わるインプラント治療はより身近なものになってきた。しかし歯周病などの原因で歯が失われた場合、インプラントを長期安定させるための骨が不十分なことが多い。

こうしたケースでは、従来は患者様ご自身の下顎などの骨の厚い部分から自家骨を採取し、薄い部分に移植することでインプラント治療を可能にしてきたが、このやり方では患者様の外科的ダメージや時間的な負担が大きかった。

特殊タンパクで負担減

近年アメリカではこのような従来の術式に代わり、骨を作る初期段階で作用するタンパク質を使い、

よりシンプルで安全な、体に負担の少ない方法が主流となってきている。

以下は上の前歯をけがで失った男性の症例。インプラントを支える為の十分な骨がなく、歯茎が通常よりかなりやせていた。写真1。隣の歯を削らずに歯を入れたいと



骨量が少ない部分へのインプラント

成長タンパクを用いた歯槽骨増大術

いう患者様の希望によりインプラント治療を選択。まずはそれを支える骨を作ることになった。

従来なら下顎から骨の一部をとって患部に移植するが、このケースでは化学合成されたカルシウムに、骨を作る細胞を呼び込むタン

パク質を混ぜて移植。負担が少なくより簡単な処置で済んだ。数ヶ月後、従来の方法と変わらないしつかりとしたインプラントの土台を作ることができた。写真2。そこにインプラントを埋入し、隣の歯を傷つけることなく歯を入れることができた。写真3。

骨再生が欧米の主流

このような新しい骨再生技術は、負担の大きかった従来の骨移植に代わり、簡単でより安全な方法として欧米では主流となってきた。



WADA DENTAL OFFICE



新市・和田歯科医院

— M&K インプラントオフィス福山 —

院長 和田 勝 / アメリカ歯周病専門医
アメリカ歯周病学会認定医
ペンシルベニア大学歯周病科留学

和田 圭祐
田中 哲浩

福山市新市町新市726-1 (ムシバゼロ)

Tel. 0847-52-6480

詳しくは当院のインプラント専用サイトをご覧ください <http://www.wada-implant.net/>